



[SPECIAL FEATURE]

Happy Graduation!



2019年3月9日(土)、聖徳大学通信教育部の卒業式が行われました。

将来への希望を胸に、それぞれの目標へと巣立っていった124名の卒業生たち。

今月の特集では、先生と、無事卒業を迎えた修了生・卒業生からのメッセージをご紹介します。

また、本誌巻末44ページから短期大学部卒業生「卒業におもう」を掲載しています。

**修了生・卒業生
の内訳**

大学院児童学研究科 博士前期課程..... 8名
児童学部児童学科..... 17名
心理・福祉学部心理学科..... 23名
心理・福祉学部社会福祉学科..... 34名
文学部文学科..... 9名

人文学部社会福祉学科..... 7名
人文学部心理学科..... 4名
人文学部英米文化学科..... 2名
人文学部日本文化学科..... 1名
短期大学部保育科..... 19名
計..... 124名



先生からのメッセージ



聖徳大学大学院
児童学研究科長

小野瀬 雅人

このたびは、大学院修了おめでとうございます。大学院での学業・研究とお仕事等を両立され、学位授与式の日を迎えられた皆さんに対し、心より敬意を表したいと思います。

大学院修了(学位授与式)を迎えるまでのプロセスを振り返ると、修了生の皆さんお一人お一人、それぞれに語りつくせないご苦労があったことと思います。ご苦労が多かった分だけ、大学院修了の喜びも、達成感も大きかったのではないのでしょうか。

修了生の皆さんには、大学院に入学して新たに修得したこともたくさんあるでしょう。能力面でいえば、ICTを活用した情報収集・分析力、論文作成技術やプレゼンテーション力、等々、思い出したらきりがないかもしれません。また、構想・中間発表会で知り合った院生仲間との「出会い」や「交流」もあったことと思います。

これらの「財産」は、聖徳で学び・研究する機会があったからこそ得られたものであると思います。修了生の皆さんには、これらの「財産」を、これからの人生における「励み」とし、ますますご発展・ご活躍されますよう、心より祈念いたしております。



聖徳大学
通信教育部長

宮川 三平

この度ご卒業の皆様、誠におめでとうございます。見事ご卒業を勝ち得たのは、皆様のたゆまぬご努力と強い意志の賜物と思い、心より敬意を表したいと思います。また皆様を応援し、支えてこられたご家族やご友人などの皆様もことのほかお喜びのことと存じます。多くの皆様の温かいサポートに対して、深く感謝申し上げたいと存じます。さてこれから、皆様の進む道は、必ずしも平坦であるとは限りません。凹凸がある、障害物が立ちちはだかるなどの困難に遭遇するかもしれません。こうした苦難に立ち向かう時に、聖徳大学で培ってきた粘りと決して諦めない強い精神力がきつとお役に立つと思います。そして、生涯自らを一回りも二回りも成長させるよう一步一步進んでいただきたいと思います。そして、それぞれの道で、どんなに小さくとも皆様一人ひとりの立派な花を咲かせていただきたいと思います。ご卒業後も、聖徳大学のサポートは続きます。共に、誠実という光を頼りに精進してまいりましょう。



聖徳大学短期大学部
通信教育部 保育科長

小畑 秀樹

ご卒業おめでとうございます。卒業までの道のりには、様々な苦労があったことと思います。まずは、これまでのみなさんの努力に敬意を表します。みなさんは、それぞれ目的をもって本学に入学されたことと思います。みなさんの入学の目的は「卒業すること」や「免許・資格を取得すること」ではなかったと思います。「聖徳で身につけた力を保育現場で子どものために生かす」など、卒業した今後に目的があることと思います。卒業は「学びの終わり」ではありません。みなさんの目的を十分に達成するためには、学び続ける姿勢が大切です。さらに学ぶことで、より専門性を高め、同時に人間性を磨き、一流のプロへなれることと思います。みなさんは通信教育という学習システムの中で、苦労しながらも確実に「学ぶ力」を身につけられました。その力をもってすれば、必ず学び続けることができると確信してやみません。聖徳はいつまでも、みなさんを応援しています！

修了生・卒業生からのメッセージ



聖徳大学大学院
児童学研究科 博士前期課程

酒井 美鳥さん

私は「なんとしてでも2年で卒業しよう!」と心に決めて入学しました。入学前には「通信教育は卒業率が低い(途中であきらめてしまう人が多い)」「2年で卒業できる人は少ない」という情報を目にしていたので、結果的に無事に2年間で卒業できたことを、改めて嬉しく思います。

通信教育で良かったと思う点は、論理的な文章を書く機会が多かったことと、自己管理能力が問われたことだと感じています。私はほとんどの単位をレポートと試験で修得したので、論理的な文章を求められる機会が多く、それが修士論文を書く際に役立ったと感じました。また、レポート課題や研究を目標通りに進めるには、自分の生活を見直し、時には家族や周りの人にも協力してもらう必要がありました。そういった中で効率的な時間の使い方や、周りの人との調整がうまくできるようになっていったと思います。

最後に、私が論文を書き進める中で強く感じたことは、“自分が心から明らかにしたいと思える問い”を研究テーマにすることの重要性です。研究の実施や論文を書く中で壁にぶつかったときに、この情熱が自分の背中を押してくれます。在学中の皆様には、ぜひこの情熱を胸に、楽しい研究生生活を送っていただきたいなと思います。



聖徳大学
児童学部児童学科

紺野 里美さん

5年前、一番下の子が小学校に上がるのを機に習い事かパートか何かをやってみようと思っていた時、ふと子どもの頃の夢を思い出したことで、たまたま手にとった雑誌がきっかけで入学しました。何もできないまま半年が過ぎ、これではいけないと、進捗表を作り、一ヶ月に一科目ずつ、と目標を決めました。階段を一段ずつ、両足を揃えて上るようなゆっくりペースではありましたが、なんとか最後まで登りきることができました。

一番良かったことは、スクーリングで(世代を超えて)友人ができたことです。情報交換したり、他愛もない話をしたり、本当に楽しかったです。家族にもたくさん支えてもらいました。スクーリングの為、夏休みの間ずっと実家で子どもの面倒を見てもらったこともありました。試験前は、「ホコリで人は死なない」と言いつつ(でもうちの子は喘息持ちだから死なないとも言いきれないかも?)、勉強に集中させてもらっていました。

今は実習に行った保育園でパートとして働いています。子どもの頃の夢が叶い、嬉しく思っています。子育てが終わってからの挑戦ということで遠回りをしたような気もしますが、その分得た知識も経験もあり、無駄ではなかったと思っています。むしろ若い頃よりも勉強するということに対してきちんと向き合えた気がしています。

在校生の皆様も夢に向かって頑張ってください。きっと叶います。



聖徳大学短期大学部
保育科

木村 裕子さん

私が入学したのは長女が2歳の時でした。初めての育児に戸惑いながらも、子が成長する姿や純粹な心に感動し、子どもに携わる仕事がしたい、という夢が再び膨らみました。長女も待機児童となっており、家族も勉強することを応援してくれ、兄が勧めてくれた聖徳大学の門をくぐりました。育児と勉強の両立は、時間との戦いでした。第2子も授かり、幼い娘達との時間を大切にしたい!でも課題も進めたい!と欲張りな私は睡眠時間を削り、肺炎になってしまったこともありました。また、責任実習当日の明け方に、次女が大きな喘息発作を起こし救急に運ばれたにも関わらず、主人が「こちらは大丈夫だから頑張っておいで!」と笑顔で送り出してくれたこともありました。卒業までを振り返ると、私は多くの方々に支えられてきました。様々なバックグラウンドの中で励まし合いながら学んだ聖徳の仲間・限られたスクーリングの中でも私を覚えて下さり熱心に指導して頂いた先生方・常に親切に対応して下さい下さる事務局の方・また実習先では沢山の素敵な先生方に温かく指導して頂きました。私の卒業は、皆様のお陰です。

在学生の皆様。通信で学ぶことは時に孤独を感じることもあるかもしれませんが、そんな時は聖徳の仲間・先生方を想い出して下さい。私もずっと応援しています。

4月からは、公立保育園でお世話になります。新たな出発に不安もありますが、聖徳での4年半を糧にし、保育士と学び・成長し続けたいと思います。

